

## 【NEWS RELEASE】

2020年4月1日

各位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

「SMBCグループ サステナビリティ宣言」及び「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、以下、当社グループを総称して「SMBCグループ」）は、「SMBCグループ サステナビリティ宣言」（以下、「サステナビリティ宣言」）を公表します。また、「サステナビリティ宣言」を遂行するための10年間の計画として「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」を策定しましたので、お知らせいたします。

## 1. 「SMBCグループ サステナビリティ宣言」の策定

## &lt; 宣言 &gt;

我々、SMBCグループは、三井、住友にルーツを持つ企業グループとして、先達が重んじたサステナビリティへの意志を受け継ぎ、社会において我々が重点的に取り組む課題を設定のうえ、サステナビリティの実現に向けて行動していきます。

我々は「サステナビリティ」を「現在の世代の誰もが経済的繁栄と幸福を享受できる社会を創り、将来の世代にその社会を受け渡すこと」と定義します。

現在、世界は様々な社会課題に直面しており、特に世界規模で環境問題が深刻化しています。

そのため2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成やESGへの関心が高まるなど、持続可能な社会の実現に向けて政官民を挙げた取組が進められています。

このような背景を踏まえ、これまで以上に社会の健全な発展に貢献していく当社の姿勢を明確化するため、経営理念に、「社会課題の解決を通じ、持続可能な社会の実現に貢献する」を追加しました。

経営理念の改定と併せて、持続可能な社会の実現を目指す上での当社グループの基本姿勢として新たに「サステナビリティ宣言」を策定し、サステナビリティの実現に向けて行動してまいります。

## 2. 「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」の策定

### <計画の柱>

- (1) サステナビリティの実現に向けたお客さま・社会への取組
- (2) サステナビリティ経営を支える社内への取組
- (3) 投資家とのコミュニケーションの向上

SMBC グループは「サステナビリティ宣言」に基づく 2030 年までの 10 年間の計画として「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」を策定しました。計画名の「GREEN」は当社のコーポレートカラーと環境を表し「GLOBE」は地球、国境のない世界を表しており、それらを「×」で繋ぐことで足し算ではない掛け算での広がりを表しています。そして基本コンセプトを「お客さまとともに、人と地球の未来を創る」とします。

「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」では SMBC グループとして取り組むべき施策を定め、グリーンファイナンス<sup>( )</sup>の取組や環境・社会課題に関しお客さまと共に作るコミュニティの立ち上げ、金融経済教育の提供などを進め、一部の施策において社会的インパクトをもたらす長期目標を設定し、進捗を管理・公表します。特に、環境・社会課題解決に向けて、2029 年度までにグリーンファイナンス目標額 10 兆円（「環境関連分野」に特化したサステナブルファイナンス）を掲げ、積極的に取り組んでいきます。さらに、投資家等とのコミュニケーションについても今後一層深めてまいります。

SMBC グループは、サステナビリティ宣言に基づきお客さまをはじめとするステークホルダーとの対話を重ね、共に行動することにより、サステナビリティの実現に積極的に貢献してまいります。

< 「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」における長期目標 >

計画の柱	10年間のKPIと目指す社会像
サステナビリティの実現に向けた お客さま・社会への 取組	<p><b>KPI</b> : 2020年度から2029年度のグリーンファイナンス実行額<b>10兆円</b></p> <p>グリーンファイナンスへの積極的な取組により、お客さまとともに環境負荷軽減に貢献している状況</p>
	<p><b>KPI</b> : 2020年度から2029年度の金融経済教育等への参加者数<b>150万人</b></p> <p>社会課題や金融に関するリテラシーを身につけた人が、増加している状況</p>
	<p><b>KPI</b> : 最低年1回、社会貢献活動等に関する社会的インパクト評価を実施し結果を公表する</p> <p>人々や企業の活動の社会的インパクトが計測でき、社会課題解決の見える化が進んだ状況</p>
サステナビリティ経営を支える 社内の取組	<p><b>KPI</b> : 担当者、お客さまのSDGs等に関する認知度や社会課題の解決に関する対話の実行状況をアンケートで計測する</p> <p>お客さまと接する担当者が、お客さまとSDGs等の社会課題の解決に向けた深い対話を行い、ともに解決に向けた行動ができる状況</p> <p><b>KPI</b> : 2029年度までに三井住友銀行のCO2排出量を2018年度対比<b>30%削減</b>する</p> <p>三井住友銀行が、CO2排出量の削減目標を定めることで、当社を含めた各企業が削減に向けて行動を起こしている状況</p>

( ) 再生可能エネルギーやグリーンビルディングなど、国際資本市場協会「グリーンボンド原則」の「Green Project Categories」に該当する事業

以 上

## < SMBCグループ サステナビリティ宣言 >

宣言	<p>我々、SMBCグループは、三井、住友にルーツを持つ企業グループとして、先達が重んじたサステナビリティへの意志を受け継ぎ、社会において我々が重点的に取り組む課題を設定のうえ、サステナビリティの実現に向けて行動していきます。</p>
サステナビリティの定義	<p>我々は「サステナビリティ」を「現在の世代の誰もが経済的繁栄と幸福を享受できる社会を創り、将来の世代にその社会を受け渡すこと」と定義します。</p>
現状認識と我々の役割	<p>現在、我々は、我々を取り巻く社会が、大きな課題に直面し、持続的かつ強靱な社会への移行のために、早急且つ大胆な行動と社会の変革が求められていると認識しています。このような認識のもと、我々は、国連が定める持続可能な開発のための目標である“SDGs”の達成や社会課題の解決を目指し、金融事業を営む者として、お客さまをはじめとするステークホルダーと対話し共に行動することにより、社会をより良いものへ変革することに貢献していきます。</p> <p>特に、「環境」は社会の持続可能性の前提となる世代間共有の財産です。一度破壊された環境を取り戻すのは容易ではなく、気候変動をはじめとする環境課題の解決にはイノベーションが不可欠だと認識しています。そして、現在の世代は、将来の世代に現状の環境を遺す責務があるとも認識しています。このような認識のもと、我々はパリ協定の精神を支持し、環境課題の解決に貢献していきます。</p>
設定する重点課題とその背景	<p>「サステナビリティ」は、我々の源流となっている三井、住友の先達たちが、400年以上にも亘り、連綿と経営の根底に据えてきた大義であり、現在の我々の礎となっています。</p> <p>三井の先達は、1673年に呉服商として江戸に進出し、当時の商慣習にイノベーションをもたらし、江戸町民のコミュニティに根付く新たなビジネスモデルを確立しました。また1683年に両替業に進出し、江戸時代には業界屈指の両替商として、明治以降は銀行として、三世紀余、何世代にも亘り日本そして世界の経済活動の基盤となる金融インフラの重要な担い手となってきました。</p> <p>住友の先達は、1600年頃、当時としては最先端の銅の精錬方法を開発し、その技術革新により日本は、江戸時代の二世紀余、何世代にも亘り、世界有数の銅産出国でありました。一方で、地球環境へも早くから目を配っています。1894年、先達の一人は自社の銅山に登った際に、荒れた山を見て、「天地の大道に背く行い」と憂い、植林により、将来の世代に山の豊かな緑を、地域コミュニティに安心・安全な生活をもたらしました。</p> <p>このような、三井、住友の先達たちのサステナビリティの実践を踏まえ、我々は、緑の地球を守る企業市民として「環境」を、そして社会の一員として「コミュニティ」、「次世代」を重点課題とし、サステナビリティの実現を目指して参ります。</p>